

日航 2500人削減計画

22年3月期 1460億円赤字予想

日本航空は二日、二〇二二年三ヶ月期連結決算の純損益が千四百六十億円の赤字（前期は二千八百六十六億円の赤字）になるとの業績予想を発表した。通期の赤字は二年連続。売上高は前期比59・2%増の七千六百六十億円と見込む。新型コロナウイルスのデルタ株流行で二一年度上半期（四―九月）の大半が緊急事態宣言などの発令と重なり移動が制限され、旅客需要が低迷した。連結従業員数を二三年三ヶ月末に約三万三千五百人とし、約二千五百人を削減する計画も示した。

ANAと経費削減協力

人員減はグループの格安航空会社（LCC）は除き、採用抑制や定年退職などで対応する。ANAホールディングス（HD）も二六年三ヶ月末までにANAブランドの航空事業に従事する人員規模を九千人削減

する方針を発表している。航空業界が長引く低迷から簡単には抜け出せないことが裏打ちされ、人員をスリム化する動きが広がる。ANAHDは既に二二年三ヶ月期の連結純損益予想を一千億円の赤字に下方修

記者会見する日本航空の菊山英樹専務執行役員
二日、東京都内で



正。赤字幅で日航はANAHDを上回る規模となる。大手二社は改札機の共同利用など業務効率化やコスト削減で協力し収益改善を図る姿勢だ。

日航が同時に発表した二一年九月中間決算の純損益は千四十九億円の赤字となり、売上高は前年同期比49・2%増の二千九百六億円

だった。国内外で旅行や出張を控える動きが想定以上に長引いた。

東京都内で記者会見した菊山英樹専務執行役員は二三年三ヶ月期の連結純損益で黒字化を目指す方針を示した。単月の黒字化のめどについては二一年中に現金の流出が止まり、来年二月以降に達成できると予想。地方路線のネットワークに関しては「予測がクリアに語れない」と述べ、現在の需要に基づく機動的な減便を当面続けると説明した。

ANAHDとの比較で二二年三ヶ月期連結純損益の赤字幅に差が出た理由は、日航が貨物専用機を保有せず国際貨物の分野で収益が少なかったことを挙げた。

日航は航空系商社のJALUX（ジャラルクス）を株式公開買い付け（TOB）などを通じて連結子会社化する方針も発表。地域産品の販売など非航空分野を強化する。